

# はあとふる

Info. 21



7月23日(水)に、地域支援センター特別支援教育研修会を実施しました。今年度は、植草学園大学の佐藤慎二先生をお招きし、『「気になる」子どもの保護者にどう伝える?—保護者の思いや置かれている状況に思いを寄せながら—』という演題で講演をしていただきました。

今回は、講演会の様子やキーワードなどをご紹介します。



子どもの困っていることを保護者に伝えるとき、私たち教員は、どう伝えたらよいか悩みます。佐藤先生の講演を聞いて私たちの保護者へ接する姿勢として大切なことは

- 私たちが気が付いていることは、「保護者はすでに気が付いてる。」ということをおく。

- ・保護者の心は傷ついているかもしれないということをお頭の片隅において接する。

- ・子供の評価=子育ての評価

○面談するときは

- ・30分の面談より、30秒の立ち話、30秒の連絡帳の工夫で信頼関係を築く。

- ・子どもの「できること」を軸にした保護者との連携(親子が共に自尊感情を低下させるのをできるだけ防ぐ)

- ・説明責任を果たす姿勢の大切さ(園所学校だけでは「できない」を伝えるのも専門性)



今回の研修には、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、他の支援学校より約50名の先生方が参加されました。疑似体験やミニネタ等、発達段階に応じて使えるような活動を実際に参加者も行いながら教えていただきました。



学級づくりの話もいただきました

ある子どもに「ないと困る」「合理的配慮」の中には、どの子どもにも「あると便利で・役に立つ」支援があり、それを増やす努力をする=ユニバーサルデザイン。インクルーシブ教育になる。

気になる行動への対応が学級経営・授業・保育全体をよりよく高めるイメージ



研修会で教えていただいたミニネタ、疑似体験等はYouTubeに公開されています。

『簡単マジック・手遊びシアター』で検索してください。日常の保育、教育活動に役立てられる内容が満載です。